



# ハウス搬入後の育苗管理

■搬入直後から高温に注意！！軟弱徒長を防ごう■



## 1.緑化期の管理～ヤケ苗防止対策～

- 出芽揃い(1cm程度)を確認してからハウスへ搬入する。
- ハウス搬入後は必ず灌水しましょう。※覆土を落ち着かせる程度！！
- 搬入後は温度の上がない太陽シートなどで遮光する。  
【保温の必要はほとんどない】



緑化していれば、

被覆資材をはずす



## 2.搬入直後から高温注意！！

- 温度計は苗の高さに設置し、こまめにハウス内の温度を確認しましょう。
- ヤケ苗のほとんどは、緑化期に発生します。  
ハウス内の温度が 30℃を超える場合には、たとえ緑化期であっても換気(太陽の反対側のビニールを開放)しましょう。
- 緑化完了後(ハウス搬入後 2～3 日後頃)は、速やかに被覆資材を取り除き、徒長を防ぎましょう。

☆ハウス内の温度

日中:20～30℃ 夜間:10～15℃

※日中 30℃を超えないように管理を行いましょう！！



## 3.硬化期の管理～草丈よりも根張り・灌水は控えめ！換気は多め！～

- コシヒカリの育苗は苗丈の伸びが早く育苗日数が短くなるため、根量が少なくマット強度が極端に弱くなりやすい傾向があります。苗丈の伸びをなるべく抑え根量を増やすため、灌水を控えめにし、根張りの促進を図りましょう。
- 灌水は、原則として朝 1 回  
床土が乾燥して苗が萎れるようなら、午後 1 回軽く灌水し、適度な湿り気を保ちましょう。※但し、夕方はやらずに翌朝まで待つようにしましょう。



ハウスの役目は

雨風対策！！

- 硬化期の日中のハウス内温度は、閉めきっておくと10時頃には 40℃以上になります。一度上がったハウス内の温度は下がりにくいので、遅くても、朝8時頃までにはハウスを開けましょう。

- 硬化期になれば、保温の必要はほとんどありません。  
ハウスを全開にするなど、温度を下げることを徹底しましょう。

# 適期田植えと過剰生育の抑制

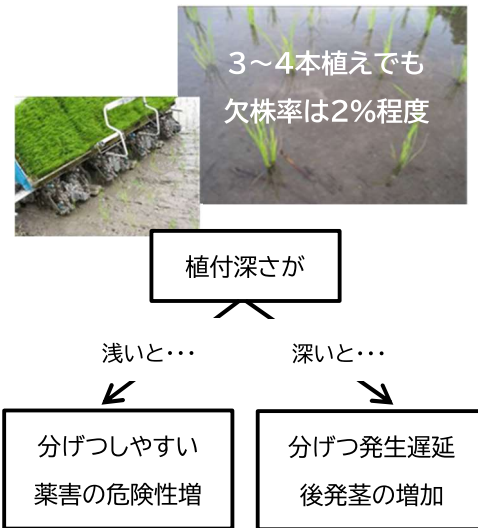
## ■適期田植えと疎植による品質向上対策

田植えは必要とする株数を確保し、初期生育を安定させ、分けつを確保しやすい条件を作ることが大切です。降霜の危険性が高いうちの田植えは控えましょう。近年は生育期間中の気温が高く、生育が早まる傾向にあります。出穂期が高温時期と重なることによる白未熟粒等の品質低下を防止するため適期田植えを遵守しましょう。

品 種	ハナエチゼン	日本晴		コシヒカリ・あきさかり	
地 域	全 域	山間地	平坦地	山間地	平坦地
田植日	5月1日	5月1日	5月10日	5月13日	5月20日

・細植えにする理由は、太いしっかりとした茎をつくるためです。太いしっかりした茎ができると、穂も大きくなり(大粒化)、倒伏にも強くなります。植付け本数の多い稲は、株が立派に見えますが、1本の茎が細く穂が小さくなりやすくなる上に、目に見えて倒伏しやすくなります。

・植付深さは根の発生位置が土中深さ3cm 程度となっているかを目安としましょう。右記のようにそれぞれのメリット・デメリットがありますので、目標値から大きく外れている場合は田植え機を調整しましょう。



## ■基肥量

ハナエチゼン	コシヒカリ	特裁コシヒカリ認証③ 省農薬あきさかり	特裁コシヒカリ認証④	あきさかり	日本晴
ハナエチゼン 588	エココシヒカリ 886	HG有機 666	特裁コシ一発 297	あきさかりコート 559	日本晴 588
					
40 kg/10a	40 kg/10a	60 kg/10a	60 kg/10a	40 kg/10a	40 kg/10a

・基肥の量が過剰になると病虫害の発生や倒伏の危険性が増加し、不足すると葉色が淡く、生育量が小さくなります。地力を考慮した上で、標準基肥量を参考に施肥しましょう。



・肥料によって比重も若干異なりますので、施肥開度表(今月号のかがやき9ページ掲載)をご確認の上、作業を開始しましょう。